

◇ あさひのプロジェクト（総合的な学習の時間）の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、デザイン思考の過程の中で自分のできる実践を繰り返し行うことを通して、自分の考えを広げ深めながら課題を解決し、実生活・実社会における自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとする意欲を高める。

ア日常生活や社会に目を向けて、そこから湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見付け、探究のプロセスを繰り返しながら豊かに学んでいる。

イ課題に対して、多様な角度から俯瞰して捉えながら、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目前の具体的な課題に粘り強く対処し、解決しようとする。

ウ探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自己の生き方を考え、積極的に社会参画しようとする。

◇ あさひのプロジェクトにおける新たな価値を創造できる資質・能力の捉え

ア 問題発見・解決能力	イ 批判的思考力	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力
日常生活や社会に目を向けて、そこから湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見つけ、探究のプロセスを繰り返しながら豊かに学習すること	課題に対して、多様な角度から俯瞰して捉えながら、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目前の具体的な課題に粘り強く対処し、解決しようとする	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自己の生き方を考え、積極的に社会参画しようとする

1 単元名・学年 「これからの社会に触れる私（第1期）」・1年

2 単元のねらい

これまでに学習したことや自分自身が興味・関心のあることから考えた「身近な社会貢献」に向けた問いを分野別のチームの友と関わりながら計画・実践していく探究的な学習を通して、日常生活や社会に目を向けて、そこから湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら社会に存在する課題に目を向けたり、共感したりしようとする。

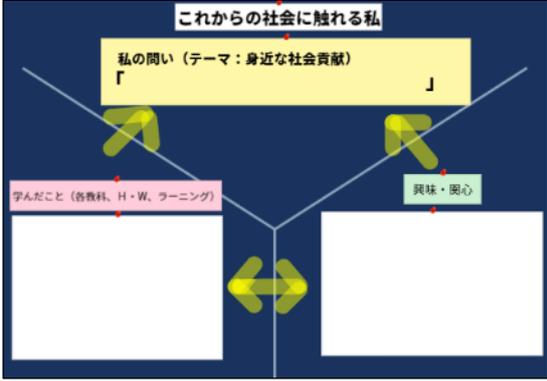
3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 持続可能な社会の実現に①は、そこに存在する問題が人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解している。</p> <p>知 追究したことが自己の生活②に関わっていることに気付いている。</p> <p>技 情報収集の手段のメリット①とデメリットを理解し、目的に合った情報を収集している。</p> <p>技 ウェブサイトから、検索ソフト②を使って、必要な情報を収集している。</p>	<p>思 社会における諸問題の中①から自分が追究する課題を見いだしている。</p> <p>思 グラフなどの適切な方法②で整理している。</p> <p>思 追究過程や分かったこと③などをスライドにまとめている。</p> <p>思 これまでの自分を振り返り④、課題を見だし、次の活動に生かそうとしている。</p> <p>思 自分の大切にしたい生き方⑤を問い直し、まとめている。</p>	<p>態 自ら設定した課題の価値に気付き①、自分の意志で活動に取り組もうとしている。</p> <p>態 収集した情報の中から、伝えたい②ことを明確にして、スライドを作成しようとしている。</p> <p>態 社会の課題を解決するために③生活の中でできることを考え、取り組もうとしている。</p> <p>態 地域の方や企業の方など社会④で生きる人との関わりの中で、社会の中での自らの生き方について考えている。</p>

※新たな価値を創造できる資質・能力の評価は、上記の評価基準を関わらせて行う。

4 単元展開 (全 20 時間扱い、本時は第 12 時)

段階	学習活動	時間
導 入	<p>・あさひのプロジェクトのガイダンスを聞き、学校環境、繊維、農業、防災・減災の四つの分野に分かれたチームでの活動のイメージをもつ。</p> <p>・あさひのラーニングのテーマ学習 (図 1) や講座学習 (分野別の出前講座 (図 2・3) 等) での学習を振り返り、Yチャート (図 4) を用いて、これまでに学習したことと自分自身の興味・関心のあることから「身近な社会貢献」に向けた問いを考え、決め出す。</p> <div data-bbox="252 555 794 922" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">テーマに対する問いに対する答え</p> <p>【問い】 亀倉町がこれからも続いていくために私ができることはなんだろうか</p> <p>【問いに対する答え】 図などを用いてもよい</p> <p>① 亀倉町の現状</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲秋になると実が散らされる柿</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲以前は栗やそばが育てられていた所</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲秋になると実が放置される茶</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲以前は田んぼだったと思われる所</p> </div> </div> </div>	



※ここまでは学年共通の活動

- ・希望アンケートを基に編成された四つのチームに分かれて、「身近な社会貢献」という視点で、一人一人の問いやその理由、チームとしてこれから行っていきたい活動についての考えを共有し、活動の方針を立てる。
- ・「身近な社会貢献」に向けた活動を行うにあたり、調査活動や事前学習を行う (図 5)。



	<ul style="list-style-type: none"> これから追究したいことや、やってみたい活動についての考えを共有し、共通点の多いキーワードを基にグループ編成を行う。 《キーワードの例》 ①「環境」 ②「作ってみたい」 ③「知りたい」④「再利用」 グループに分かれて、これまでの情報を整理し、活動の目標や対象、解決したい問題の決め出しを行う。また、具体的な解決策を考える上でさらに必要な情報がないか確認し、情報を収集する（図7）。 	 <p>図7 情報収集の様子</p>	7 5 9
展	<p>【学年内実践報告会（進捗状況の報告・情報交換の機会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年内の友に向けて、活動開始からこれまでの学びを説明し、活動目的や今後の見通しに関して客観的な意見をもらう（図8）。 友からの意見や他のチームの活動の様子から、自分たちのチームの活動に生かせる部分を取り入れ、再度、解決策を検討する。 	 <p>図8 学年内実践報告会の様子</p>	10
開	<p>※各チームの進捗状況に応じて内容が異なる</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごと、解決策の実践に向けて、問題解決の仮説を立案し、検証方法を含めた計画書の作成および実践（調査活動など）の準備を進める。 		11
	<p>【実践報告会（他学年への進捗状況の報告・情報交換の機会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2～3年生や保護者、企業の方に向けて、活動開始からこれまでの学び（行ったこと、手応え等）、活動の評価、今後の展望を説明し、感想や意見をもらう。その際、今後の活動に向けて、客観的な視点から自分たちの活動を見られるように、あらかじめ意見をいただきたい視点を決めておく。 		12 (本時)
	<ul style="list-style-type: none"> 実践報告会で得た経験や意見を基に、再度、グループごと、解決策の実践に向けて、問題解決の仮説を立案し、検証方法も含めた計画書の作成および実践（調査活動など）を行う。 これまで行ってきた実践を基に改善した活動を計画したり、計画書を基に情報を整理して新たな解決策の計画を立てたりする。 活動の集大成として、自分たちが立てた解決したい問題に対して、現時点で最善の解決策を実践し、結果を検証する。 これまでの活動についてまとめ、成果発表会に向けた準備を行う。 		13 5 18
終末	<p>【成果発表会（あさひのプロジェクトの取組を全校生徒や保護者に発表する機会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1～3年生や保護者の方に向けて、活動開始からこれまでの学び（行ったこと、手応え等）、活動の評価、今後の展望を説明する。 <p>※12月に実施予定</p>		19 20

5 各チームの活動概略（9月末時点）

(1) 学校プロジェクト（附属テラス）チーム

「より過ごしやすい学校づくり」を大きなテーマとしながら、「附属テラス」と名付けた憩いの場に関わるいくつかのグループに分かれて活動している。

- ① パラソルグループ …日差しを避けるためのパラソルをつくる。
- ② 花壇グループ …花を植えて学校を明るくする。
- ③ 遊具グループ …遊具をつくり、遊び場をつくる。
- ④ 拡大グループ …ベンチや椅子をつくり、現在ある場所を拡大する。
- ⑤ 新設グループ …特別支援の児童生徒も使用できるような場所に新しくつくる。



(2) 学校プロジェクト（環境改善）チーム

「より過ごしやすい学校づくり」を大きなテーマとしながら、校地内の課題に着目し、それぞれがもった課題を解決するためにグループに分かれて活動を行っている。ここでは、二つのグループの活動を紹介します。

- ① 花台グループ …本校では安全な廊下歩行を目的とした右側歩行を促すために、廊下の交差する場所に花台を置いている。花台に置いている植物が倒れる度に掃除を行うことに課題意識をもった生徒が、落ちても困らないように造花を作ったり、花台が倒れないような工夫をしたりしている。
- ② タイルグループ …附属中学前駅から本校までの道のりにあるタイルの道に雨が降ると大きな水たまりができてしまうことに課題意識をもった生徒が、信州大学工学部の先生や民間企業の協力を得ながら、修復を目指している。



(3) 農業チーム

7月の探究の時間で、信州大学の先生から農業に関するお話を聞いた。さらに9月には、農業を実際に体験するために信濃町でピーマンの収穫を行った。そこから生まれた新たな問いや興味・関心を基にグループに分かれて活動を行っている。

- ① 栽培グループ …学校で育てられる作物や栽培方法を調査する。
- ② 販売グループ …野菜を仕入れて販売することを目指す。
- ③ 広報グループ …実際に話を聞いたり、調査したりして、農業の課題や魅力を伝える。



(4) 繊維チーム

7月の探究の時間での信州大学繊維学部の先生による出前授業をきっかけに、繊維学部の見学に行った。見学では、「最新の技術を知る」「生活の中にある繊維について学ぶ」「真綿づくりで実際に触れる」といった活動を行った。その後、やりたい活動のキーワードごとグループを編成し、活動を行っている。

- ① 環境グループ …衣服のゴミ問題を解消するために、できることを行う。
- ② 作ってみたいグループ …実際に自分たちで作ってみる（服から作るエコバッグなど）。
- ③ 知りたいグループ …繊維に関わるさまざまなことを調べたり、企業に話を聞きにいったりしながら、分かったことを発信する。
- ④ 再利用グループ …小売店が行っている服のリユース事業について調べ、発信する。



(5) 防災・減災チーム

防災・減災について、校内の課題を見つけたり、信州大学工学部で身近な水害について学習したりした。その後、令和元年度台風19号で被災した経験がある本校教頭による講話を聞き、当時の穂保地区の方々の生活や避難所での生活などについて知ることができた。そこでの学びと自分たちの問いを関連させて、各グループに分かれてそれぞれ追究を進めている。

- ① 避難訓練グループ …生徒が主体となる避難訓練を計画し、実施を目指す。
- ② 避難所運営グループ …避難所運営ゲームから見いだした課題について追究する。
- ③ 日々の備えグループ …家庭生活で今日からできる備えの発信をする。
- ④ 防災設備グループ …防災倉庫や非常食などについて、本校の防災設備面を再考する。

